まちの話題 Town Topics

感染リスクを減らすために

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、市内の企業、個人の方などから非接触型温度計・自動体温測定器などが寄附されました。瞬時に体温確認ができ、異常を検知した際には警告音が鳴る自動体温測定器は、市内小学校の昇降口や市役所玄関に設置され、子どもたちの安心安全な学校生活と市役所来庁者の健康管理、感染拡大防止に活用されます。

寄附を受けて市長は「ご寄附いただいたものを市民の皆さまの『いのちを守る』取り組みに最大限活用させていただく。引き続き本市の保健衛生行政の向上を図るとともに、市民サービスをストップさせることのないように全力を注いでいく」と話されました。

【寄附内容】

- ・大谷建設株式会社様 市内小中学校、市施設に非接触型温度計 20 個
- ・大進電気工事株式会社様 市内小学校に自動体温測定器8台
- ・佐野 幸隆様 市施設、市開催会議・イベント時使用に非接触型温度計 20 個
- ・明治安田生命保険相互会社様 市に金 425,500 円











・株式会社グリーンへリテージ様 市に自動体温測定器、可搬型蓄電池システム一式

子どもたちの未来のために

株式会社格和測量設計様から、柔軟な子育で支援を行うため創設された「矢板市子ども未来基金」に50万円が寄附されました。これは、格和 功取締役が、国交省関東地方整備局の「優良業務および優秀技術者局長表彰」を受賞されたことを記念してご寄附いただいたものです。

格和 弘代表取締役社長は「社会資本の整備のためには何よりも子どもたちの活躍が必要と考え寄附をさせていただいた。未来を担う子どもたちおよび子育て世代への支援施策の充実に役立ててほしい」と話していました。





7/18 備えあれば憂いなし

栃木県の災害拠点病院および災害派遣医療チーム(DMAT) 指定病院である国際医療福祉大学塩谷病院で、塩谷広域行 政組合消防本部と合同による災害初動訓練が行われました。 この訓練は、災害発生時に迅速かつ的確な医療行為が行え るよう、指定を受けてから毎年行っているものです。

今回は新型コロナウイルス流行下での大規模地震発生を 想定し、搬送される傷病者に検温やトリアージを行い、症 状別の処置室に誘導するなど、職員同士が声かけを意識し 緊張感を持って訓練にあたっていました。



《トリアージとは、 災害時などに多数の傷病 者が発生した場合に、傷 病の緊急度や重症度に応 じて治療の優先位順を決 定することです。

7/31 (金)

花火で疫病退散!

やいた花火大会実行委員会が、中止となった花火大会の代わりに子どもたちに家庭で花火を楽しんでもらいたいと市内の児童福祉施設などを利用している子どもたち約1,400人に手持ち花火セットを配布しました。また、来年の花火大会のポスター写真を募集するため、「矢板おうち花火」と題して家族で楽しんでいる様子をSNSに投稿してもらう企画も合わせて行っています。

実行委員の千野根さんは「来年こそは、秋の夜空を彩る花火と子どもたちの笑顔が見られるのを楽しみにしている」と話してくれました。



ノコロナに負けるな!

片岡長生会のメンバー約 15 人が、旧暦の七夕にあわせて片岡公民館に七夕飾りを設置しました。新型コロナウイルス感染症の影響でシニアクラブの活動ができない代わりにと感染症の収束を願い、初めて実施したもので、「コロナに負けるな!」と大きく書かれた飾りのほか、片岡小学校の児童の願いが込められた短冊がメンバーによって飾り付けられました。

大類会長は「この願いが届き、以前のように地域で楽 しく交流する機会が戻ってきてほしい」と話していました。



